



あなたにとって
「わたしの一枚」とは
どんな写真ですか？

わたしの一枚
my photograph

わたしの記憶、若者達の未来

塩坂 啓司 (東京都豊島区 塩坂写真スタジオ)



久し振りに開いた、幼き頃のアルバム。

「まあ何と可愛い小坊主姿」。数珠を持った手を少し持ち上げ、ゆらゆらとさせている。視線はしっかりレンズを見据え、子供ながら少し緊張気味だ。

この写真は紛れもなく、わが4才の頃の姿なのだ。

昭和14年(1939年)3月、7人兄弟の6番目(三男)として、この世に生を受け、そろそろ物心が付き始めた頃であろうか。

小生現在78歳、もう74年以上遡る。撮影時の記憶は無い。

昭和16年(1941年)、太平洋戦争勃発。その後は大変な苦労を重ね、終戦、そして厳しい食料難。現在、小生程以上の諸兄には、この苦しさは例えようもない事態として経験したと思います。

そして現在、豊かな時代になったとは言え、少子高齢化、世界各地での宗教戦争の如き醜い争い…理に合わない若者の大事件、わが身を滅ぼす麻薬の流行、等…。数えきれない程の事件、事故、災害…。

しかし、何とか言いながらも今の日本は「平和」ですよ。

そして、今後の「平和日本」の運命は、「若者たち」に託されてゆきます。若者にも高齢者にも優しい世が末永く続きます様、願わずには居られません。

■「写真文化」では、あなたの「わたしの一枚」を募集しています。▶詳しくは日本写真文化協会・事務局までご連絡ください。